

安全データシート

製品名 : 業務用ヌバックスエード栄養ミスト

株式会社 **コソフス**

作成 : 2023年2月27日

SDS No. : SF-1-96-0519-0000-JGNXA

ページ : 1/6

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質の名称 : 業務用ヌバックスエード栄養ミスト

会社名 : 株式会社 **コソフス**

住所 : 〒111-8610 東京都台東区寿 4-16-7

担当部門 : 化成品ルート

電話番号 : 03-3844-7117

緊急連絡先 : 松戸 FACTORY 研究室

FAX番号 : 03-3843-1277

電話番号 : 047-367-3221

製品の種類 : 皮革用保護剤

主な用途 : 皮革仕上用

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分3

健康に対する有害性

急性毒性 経口 : 分類できない

経皮 : 分類できない

吸入 (ガス) : 区分に該当しない (分類対象外)

(蒸気) : 分類できない

(粉塵、ミスト) : 分類できない

皮膚腐食性/刺激性 : 分類できない

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 分類できない

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 区分1A

特定標的臓器/全身毒性 (単回ばく露) : 分類できない

特定標的臓器/全身毒性 (反復ばく露) : 区分1 (肝臓)

区分2 (中枢神経系)

誤えん有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期 (急性) : 分類できない

水生環境有害性 長期 (慢性) : 分類できない

【GHSラベル要素】

[絵表示、注意喚起語]



危険

[危険有害性情報]

- ・引火性液体および蒸気
- ・眼刺激
- ・生殖能又は胎児への悪影響の恐れ
- ・長期又は反復ばく露による臓器の障害 (肝臓)

- ・長期又は反復ばく露による臓器の障害の恐れ（中枢神経系）

[注意書き]

《安全対策》

- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざける事。一禁煙
- ・個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
- ・保護眼鏡、保護面、保護手袋、保護衣を着用すること。
- ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・汚染された衣類を再使用する場合は洗濯をすること。
- ・ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取り扱い後は良く手を洗うこと。
- ・環境への放出を避けること。

《救急措置》

- ・火災の場合には適切な消火方法をとること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
- ・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
- ・ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
- ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・飲み込んだ場合：直ちに医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。
- ・気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・漏出物を回収すること。

《保管》

- ・容器を密閉して涼しく換気の良い所で施錠して保管すること。

《廃棄》

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

成分及び含有量（危険有害性物質を対象）

化学名	CAS No.	含有量%	備考
エタノール	64-17-5	10 ~ 20	

4. 応急処置

目に入った場合：

- ・直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。（できればコンタクトレンズをはずして）まぶたの裏まで完全に洗うこと。出来るだけ速く、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・付着物を布にて素早く拭き取る。
- ・大量の水及び石鹼または、皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤・シンナーなどは使用しないこと。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受けること。

吸入した場合：

- ・蒸気・ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にして、医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合：

- ・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・嘔吐物は飲み込ませないこと。

- ・医師の指示による以外は、無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

消火剤 : 粉末、炭酸ガス、泡

消火方法 :

- ・適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。
- ・可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
- ・水を消火に用いてはならない。
- ・指定の消火剤を使用すること。
- ・高温にさらされる密封容器は、水を掛けて冷却する。
- ・消火活動は風上より行う。

6. 漏出時の措置

- ・作業の際には適切な保護具（手袋、防護マスク、エプロン、ゴーグルなど）を着用する。
- ・漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・スコップ、ウェスなどで回収する。大量の流出には、盛り土などで囲って流出を防止する。水での洗浄なども、河川などへ排出されると環境汚染を引き起こす恐れもあり注意する。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をすること。

7. 取り扱い・保管上の注意

取り扱い上の注意 :

- ・換気の良い場所で取り扱う。
- ・容器は、その都度、密栓する。
- ・皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入らないように適切な保護具を着用する。
- ・取り扱い後は手・顔などを良く洗い、休憩所などに手袋などの汚染保護具を持ち込まない。
- ・密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。

保管上の注意 :

- ・直射日光を避け、通風の良い場所に保管する。
- ・火気、熱源から遠ざけて保管する。

8. 暴露防止措置

組成物質の暴露濃度基準（危険有害物を対象）

成分名	管理濃度	ACGIH(TWA)
エタノール	未設定	1,000 ppm

設備対策 :

- ・排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
- ・取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とする。
- ・屋内作業の場合には、自動塗装機などを使用するなど、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置などにより、作業者が蒸気などの暴露を避けられるような設備とする。
- ・タンク内部などの密閉場所で作業をする場合は、密閉場所に、特に底部まで十分に換気出来る装置を取り付けること。

保護具

目の保護 :

- ・取り扱いには、保護メガネを着用すること。

皮膚の保護 :

- ・有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

呼吸系の保護 :

- ・有機ガス用防毒マスクを着用する。
- ・密閉された場所では、送気マスクを着用する。

その他の保護具 :

- ・必要に応じて長袖・長ズボンの作業着、ゴム長靴、エプロンなどの保護衣を着用する。

9. 製品の物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 乳白色
臭い	: 香料臭
沸点又は初留点	: 78.5 °C (エタノール)
可燃性	: 可燃性
爆発限界	: データなし
引火点	: 36 °C(TCC)
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 5.5 ± 0.5
動粘性率	: 1.07 mPa・s(20°C)(エタノール)
溶解度	: 水に可溶
蒸気圧	: 59.3 mmHg(25°C) (エタノール)
比重	: 0.95 ± 0.05
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: 適応外
その他	: 特になし

10. 安定性及び反応性

反応性・安定性 :

- ・接触により危険性のある物質 : 特になし。
- ・燃焼などによる有害性ガスの発生 : 一酸化炭素などの有毒ガスが発生する恐れがある。
- ・その他の反応性情報 : 特になし。

その他の危険性情報 : 特になし。

11. 有害性情報

成分の健康有害性情報 (危険有害物を対象)

	急性毒性			
	経口	経皮	吸入(蒸気)	吸入(粉塵、ミスト)
エタノール	区分外	区分外	区分外	分類できない
	皮膚腐食・刺激	眼損傷・刺激	呼吸器感作性	皮膚感作性
エタノール	区分外	区分2B	分類できない	分類できない
	生殖細胞変異原性	発がん性		生殖毒性
エタノール	区分1B	分類できない		区分1A
	特定標的臓器(単回)	特定標的臓器(反復)		吸引性呼吸器
エタノール	区分3(気道刺激性、麻酔作用)	区分1(肝臓) 区分2(中枢神経系)		分類できない

製品に関する有害性情報 :

製品としての安全性試験は行っていない。

12. 環境影響情報

成分の水環境有害性情報 (環境有害物質を対象)

	水環境有害性(急性)	水環境有害性(慢性)
エタノール	区分外	区分外

生態毒性 : 情報なし
残留物・分解性 : 情報なし
生体蓄積性 : 情報なし
土壌中の移動性 : 情報なし

- ・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。
- ・特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・廃塗料、容器などの廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して、処理する。
- ・容器、機器装置などを洗浄した排水などは、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
- ・廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物に付いても、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係する法律に従って処理を行うか、委託をすること。

汚染容器及び包装

- ・空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
- ・許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

14. 輸送上の注意

- ・取り扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
- ・容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。
- ・国連番号 : 1263
- ・指針番号 : 128
- ・陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められた運送方法に従うこと。
- ・海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。
- ・航空輸送 : 航空法に定めるところに従うこと。
- ・国連輸送名 : 塗料 (PAINT)
- ・国連分類 : クラス 3 (引火性液体)
- ・容器等級 : 容器等級 III

15. 適用法令

消防法 : 第4類第2石油類 水溶性液体
労働安全衛生法 : 危険物・引火性の物
名称等を表示すべき危険物及び有害物
エタノール
名称等を通知すべき危険物及び有害物
エタノール

16. その他の情報

主な引用文献 :

- ・独立行政法人製品評価技術基盤機構 (N I T E) 公表データ
- ・化学品安全管理データブック 増補改訂第2版 化学工業日報社 (2000)
- ・国際化学物質安全性カード (I C S C) 日本語版 化学工業日報社 (1992)
- ・13197の化学商品 化学工業日報社 (1997)
- ・JIS Z 7252 : 2019
- ・JIS Z 7253 : 2019

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報の提供であって保証するものではありません。
危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには十分に注意して下さい。